

◎ 彙報

第七一回 原爆文学研究会

○日時 二〇二四年三月二六日(土)

○会場 福岡大学文系センター棟一五階第六

会議室(対面とオンライン)(Zoom)のハイ

ブリッド形式で開催)

○「原爆文学」再読10——後藤みな子『高円寺へ』

後藤みな子『高円寺へ』に向かうために

個別性を読むということ——雑誌「すとろ

んぼり」の活動を通して

後藤みな子「高円寺へ」——〈母の狂気〉

を描く娘——作家

栗山雄佑

岩下祥子

原爆文学研究会総会

第七二回 原爆文学研究会

○日時 二〇二四年六月二九日(土)

○Zoomを使ったオンライン形式で開催

○研究発表

変容するまなざし——大庭みな子の詩の分析を主題に——

望月裕道

教科書と「原爆文学」IV——林京子「ギヤマン ビードロ」を中心に

中野和典

長崎原爆資料館見学

奥野正太郎

第七三回 原爆文学研究会

○日時 二〇二四年一〇月一九日(土)、一〇月二〇日(日)

○会場 一〇月一九日 長崎大学教育学部四

一 番教室

一〇月二〇日 長崎原爆資料館平和学習室

【二日目】(対面とオンライン)(Zoom)のハ

イブリッド形式で開催)

○研究発表

「ひばく星人」問題を検証する——なぜ「問題」

になったのか? 本場に「差別事件」だったのか?

西河内靖泰

○「原爆文学」再読11——井上光晴『明日

——一九四五年八月八日・長崎』

『明日——一九四五年八月八日・長崎』はど

のように読まれてきたか?

中野和典

『明日』は、いまもなお“明日”たりえてい

るのか?

川口隆行

井上光晴『明日 一九四五年八月八日・長崎』

再読のために

畑中佳恵

【二日目】(対面形式のみで開催)

○講演

長崎原爆資料館収蔵資料の保存と活用——実

務家の立場から

奥野正太郎

長崎原爆資料館見学

奥野正太郎

『原爆文学研究』投稿規定

一. 投稿資格

本誌に投稿できるのは、原則、本研究会会員のものとします。ただし、編集委員会から依頼する原稿は、この限りではありません。

二. 投稿原稿の類別

投稿原稿の類別は、批評、論文、書評、詩などを著者が指定してください。また縦書きと横書きのいずれでの掲載を希望するのとも合わせて指定してください。なお、雑誌全体の書式を整えるため、必ずしも著者の希望に添えない場合があることをあらかじめご了承ください。

三. 投稿方法

原則としてメールの添付ファイルにより、投稿を受けつけます。ただし、メール添付での投稿に不都合がある場合、プリントアウト原稿に、原稿データを保存したUSBメモリ等を同封のうえ、お送りください。なおプリントアウト原稿・USBメモリ等は返却しませんのでご了承ください。

四. 書式

枚数の制限は特にもうけません。新字のあるものは、なるべく新字を用いてください。書式に関しては、原爆文学研究会ウェブサイトにアップロードしている縦書き用、あるいは横書き用のテンプレートを使用してください。テンプレートを適用しない場合には、ご相談ください。なお注は、縦書き原稿、横書き原稿ともに、算用数字で通

し番号を付け、最終ページにまとめて列記してください。

五. 「論文」の査読と査読結果の通知

「論文」枠に投稿されたものに関しては査読をおこないません。「論文」原稿の採否の決定と通知は、編集委員会が選定する査読者による審査後、編集委員会がおこないます。

六. 投稿締め切り

「論文」枠への投稿は、刊行予定時からさかのぼり、半年前の月末を締め切りとします。その他枠への投稿は、刊行予定の三か月前を原則として設定します。

七. その他

投稿者は、投稿枠にかかわらず、各自の原稿一頁（機関誌の書式）につき一〇〇〇円を発行経費として負担することをご了承ください。また刊行から一年が経過した機関誌は、原爆文学研究会のホームページにて、電子公開することとします。

『原爆文学研究』編集委員

後山剛毅 加島正浩 樫本由貴
楠田剛士（編集長） 中尾麻伊香
中野和典 長野秀樹 野坂昭雄
堀本嘉子 松永京子 山本昭宏

編集後記

前回担当した二〇号の後記では、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻が始まったことを書きました。三年後のいまも戦闘は続いています。本号編集中の二月現在も、イスラエルが年内にイランの核施設を攻撃する可能性が報じられています。こうした情勢が、トランプ米大統領の再選によってどうなるのか。日本被団協がノーベル平和賞を受賞してもなお先を見通すことは困難です。

暗然とする一方で、話題のドラマや小説に関心を引き付けられた一年でもありました。「虎に翼」では史実に基づいた原爆裁判が、「海

に眠るダイヤモンド」では端島に暮らすクリスチャンの被爆者の姿が描かれました。第一七二回芥川賞の安堂ホセ『D.T.O.P.I.A.』ではフランス領ポリネシアでの核実験の記憶が、同直木賞の伊与原新『藍を継ぐ海』所収の「折りの破片」では長崎の被爆資料が物語に関わります。それぞれ視点や表現は違いますが、先行き不明の現代において歴史に向き合うことが新しいものを生み出すことを示唆しているように感じます。

こうした作品に呼応するように、本号掲載の各論考は、当事者の経験や記憶を問題化し、南太平洋での核実験や被爆資料への向き合い方をめぐって思索を深めています。問題の引き受け方は読者次第ですが、「次は自分」と研究発表や投稿のアクションに繋がれば編集者としてとてもありがたいです。（楠田剛士）

原爆文学研究

23

二〇二五年二月二八日発行

編集 原爆文学研究会

八四一〇八〇

福岡市城南区七隈八一一九一一

福岡大学人文学部

中野和典研究室気付

発行 (有)花書院

八〇一〇〇三

福岡市中央区白金二一九一一

TEL 〇九二五二六〇三六七

FAX 〇九二五二四四一一

◇書店にない場合は「地方小出版流通センター扱い」とご指定の上、書店にご注文下さい。

◇継続購読は、花書院「原爆文学研究係」にお申し込み下さい。送料は無料となります。